

⑱母子・小児系 2 (産科婦人科)

1. 研修目標

産婦人科診療に必要な知識及び技術の修得を目標とする。産婦人科診療は、①周産期、②腫瘍、③生殖内分泌の3部門からなるが、これら各部門の基礎及び臨床応用について学習することを目標とする。また、患者に対する精神ケアの重要性を把握し、インフォームド・コンセントの実際について修得する。

2. 研修指導体制

- (1) 外来では、指導医の下で、一般妊婦及び婦人科疾患の患者について、医療面接及び診察の実際を学習する。また、専門外来（癌検診外来、産科超音波外来、不妊外来）では、各領域の専門家による診療を経験する。
- (2) 病棟では、チーム医療の一員として入院患者の診療に従事する（クリニカル・クラークシップ制）。主治医としての自覚を持って診療計画をたて、症例により分娩や手術に参加する。患者の社会的背景を把握し、患者のニーズを知ることの重要性を学ぶ。
- (3) その他、学生実習についても、チームの一員として指導を担当する。夜間は交替で当直し、指導医の下で診療に従事する。医療の一面が社会奉仕であることを学ぶ。
- (4) 選択カリキュラムに産科婦人科を選んだ者は、上記の必修研修カリキュラムに加え、さらに以下の点について学ぶことができる。まず産科については、ある妊婦の妊娠中から分娩・産褥に至る一連の経過を、主治医の一人として母児管理の観点から経験する。同様に、婦人科については、患者管理の実際を、外来診療から入院・治療に至る過程を通して、主治医の一人として経験する。その結果、妊婦の妊娠出産に対する不安と喜びを知り、また、婦人科の患者が医療に寄せる期待と不安を共感して、医師と患者（妊婦）とのあるべき関係を学習する。

3. 研修指導責任者 増崎 英明

4. 研修内容

- (1) 周産期
 - 1) 正常妊娠・分娩・産褥の管理ができる。
 - ①妊婦検診 ②ハイリスク妊娠のスクリーニング ③分娩第1期：内診による分娩進行の把握 ④分娩時胎児モニタリング ⑤分娩誘発・促進法 ⑥分娩第2期：分娩介助、会陰切開・縫合術 ⑦娩出直後の新生児の取り扱い ⑧分娩第3期：胎盤娩出 ⑨産褥管理：子宮復古、悪露、乳房などの観察 ⑩産褥1週間及び産褥1か月検診
 - 2) 異常妊娠の診断と病態の把握ができる。
 - ①流産 ②早産 ③妊娠中毒症 ④産科出血 ⑤胎児異常
- (2) 婦人科腫瘍及び感染症
 - 1) 婦人科疾患の病理、診断学及び治療
 - ①感染症：細菌性感染症、性行為感染症
 - ②良性子宮腫瘍：子宮筋腫、子宮腺筋症
 - ③良性卵巣腫瘍（卵巣貯留嚢胞を含む。）
 - ④子宮癌：子宮頸癌、子宮体癌
 - ⑤卵巣癌
 - ⑥外陰・膣疾患
 - 2) 婦人科検査法の原理と適応
 - ①細胞診
 - ②コルポスコピー
 - ③子宮頸部生検
 - ④ダグラス窩穿刺
 - ⑤子宮内膜試験掻爬
 - ⑥超音波断層法（経腹法、経膣法）
 - ⑦子宮卵管造影法

- ⑧骨盤内CTスキャン
- ⑨骨盤内MRI
- ⑩腹腔鏡検査
- (3) 生殖内分泌及び不妊症・不育症
 - 1) 生殖内分泌の生理と病理
 - ①思春期異常
 - ②更年期障害
 - ③不妊症
 - ④不育症
 - 2) 生殖内分泌検査の原理と適応
 - ①基礎体温（BBT）
 - ②ホルモン検査
 - ③子宮卵管造影法（HSG）
 - ④精液検査
 - ⑤腹腔鏡検査

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

- (1) ひとりの医師として、たんなる医療情報の提供者ではなく、患者や家族の希望を理解し、それに沿った、しかも質の高い医療情報を選択して提供できること。そのために、個々の患者の置かれている状況を把握する能力を養うこと。医療チームの一員として、自己の役割を理解し、先輩・同輩・後輩との意志疎通がとれ、患者を中心とした人間関係を構築できること。
- (2) 患者のみならず、自己や同僚の安全性に配慮できること。常に医療技術及び知識の吸収に努め、患者の治療に必要な情報を収集し、それを実際の臨床に生かせること。
- (3) 自己の置かれた社会的位置を見定め、社会の一員として果たすべき役割を理解すること。そのためには、常識ある医療人としての人格を養うべく、広く世の事象に目を向けること。

5-2 経験目標

- (1) まずは、正常妊娠及び分娩を経験すること。そのために、外来で妊婦健診にあたり、夜間には当直に加わって、分娩に立ち会うこと。同じく、異常妊娠及び分娩についても、産科超音波外来や帝王切開術に立ち会って経験を積むこと。
- (2) 入院中の患者を受け持つことにより、流産、妊娠中毒症、合併症妊娠あるいは産褥などについて経験を積むこと。
- (3) 不妊症・不育症や内分泌異常について、不妊外来において学習すること。また、思春期や更年期など、婦人特有の状況を理解し、起こりうる心身の異常について学ぶこと。
外陰・膣・子宮・卵巣などの腫瘍や感染症について学習すること。
- (4) 腫瘍外来におけるコルポスコピーや生検の手技を経験し、入院患者について、それらの診断や治療法について学習すること。
- (5) 子宮外妊娠や良性卵巣腫瘍の治療における腹腔鏡の手技を学ぶこと。
- (6) 悪性腫瘍の手術療法に立ち会い、その意義や手技について学習すること。